



ドッグウェア
着用実態
観察定量調査

[犬との暮らしから見え隠れする生活者の欲求]

調査の要約

【背景】

未曾有の経済危機が日本を覆い、あらゆる市場や企業が苦しい戦いを強いられる中、ペット市場で新たなビジネスが生まれ、賑わいに拍車をかけています。

博報堂生活総合研究所が2008年に実施した「生活定点」調査では「ペットは家族の一員だと思ふ」人は、犬の飼育者ベースで87%にも達しました。

そこで、博報堂生活総合研究所は、犬に対

する思いの深さを映し出すと思われる「ドッグウェア着用実態」に関する観察定量調査を、2009年2月、首都圏・阪神圏の1,093名を対象に実施いたしました。

さらに、調査員による観察報告や追加で実施した飼い主さんへのデプスインタビューなどを通じて、犬との暮らしから見え隠れする生活者の欲求も明らかにしました。

【結果】

首都圏・阪神圏の生活者1,093名と
散歩中の愛犬1,226匹のドッグウェア着用率は、**42%**。

- 阪神圏(38%)に比べて、「人づきあいは面倒くさいと思う」など対人関係が希薄な首都圏(44%)で高いドッグウェア着用率。
- 特に、首都圏の女性が連れていた小型犬では5割を超える(56%)高い着用率。

【考察】

犬との関係を通じ、平和な対人関係を築きたい、人との交流を広げたい。

犬に服を着せる理由から見え隠れする「犬を通じて、人と交流したい」欲求。

犬に服を着せる理由としては、寒さや汚れ・ゴミから守る、乱れた毛並みを隠す、といった機能的理由のほかに、犬の個性を表現するため、人から注目を集めるためなどの声が聞かれました。おしゃれな服を着た犬が注目を集めることで、これをきっかけに会話がスタートし、人の輪が広がる…。ドッグウェア着用率は阪神圏で38%。対人関係がより希薄と考えられる首都圏で44%。ドッグウェアは、犬を通じて“人と交流したい”という欲求を表しているようです。

「対話のネタの提供」に新たなビジネスチャンスあり？

犬との暮らしに関して、「主人とけんかしても、犬の話ですぐに仲直りできる」、「飼い犬をきっかけに見ず知らずの人とも話ができる」など、子育てママ同士のネットワーク作りに欠かせない、我が子のような役割を愛犬が果たしています。少子化の今、犬のように対話のネタを提供してくれるモノやサービス、コンテンツなどに新たなチャンスがありそうです。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社博報堂 博報堂生活総合研究所 夏山 TEL:03-6441-6450
株式会社博報堂 広報室 西尾・大野 TEL:03-6441-6161



ドッグウェア 着用実態 観察定量調査

[犬との暮らしから見え隠れする生活者の欲求]

詳細と考察



□ 背景

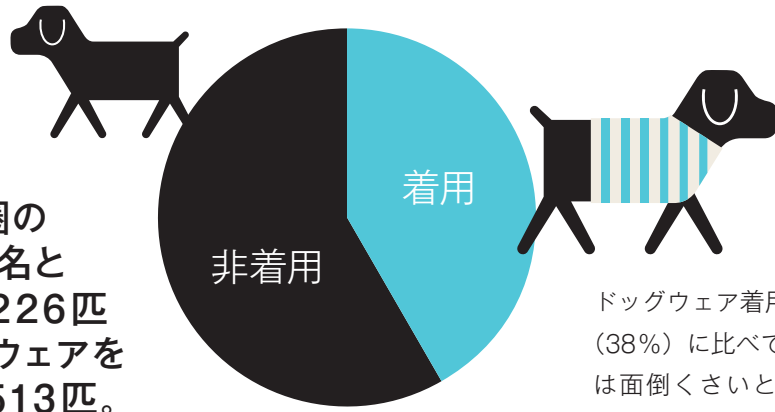
未曾有の経済危機が日本を覆い、生活者の消費意欲が低下を続ける中、あらゆる市場や企業が知恵を振り絞りながらの苦しい闘いを強いられています。こうした厳しい状況下において、シュリンクすることなく、活況な市場があります。それがペット市場。特に、人気 No.1 ペットである犬と一緒に過ごすことができる住まいや施設の増加など、犬と人間が共生できる環境が整ってきたためでしょう、犬と同伴できる宿泊施設や犬の保険、保育園など新たなビジネスも次々と生み出され、市場の賑わいに拍車をかけています。

身近な生活でもペットの存在は大きくなってきています。現在飼育されている犬猫の数(2,399万匹)が15歳未満人口(1,740万人)を大きく上回り、ペットの名前が連ねられた年賀状のやりとりも珍しくなくなりつつある昨今。博報堂生活総合研究所が2年に1度実施する「生活定点」の2008年調査を見ると「ペットは家族の一員だと思う」人が、犬の飼育者ベースで87%にも達していました(参考:11ページ DATA2「ペットの家族化に関する意識」)。そこで、私たちは犬に対する思いの深さがドッグウェアの着用実態に映し出されると考え、犬を散歩させている人と犬の数、ドッグウェア着用有無について観察記録する調査を企画。2009年2月28日(土)15:00~18:00の3時間、首都圏と阪神圏の計12地点で、青山学院大学と慶応義塾大学、神戸大学の学生さん、総勢49名に調査員として協力してもらい、実施いたしました。

不安と混沌が溢れる世の中、ペットの犬が冷え込みがちな生活者の心に幸福感や安心感を与えているのだとしたら、ドッグウェアの着用実態から生活者の心の中で隠れている見えざる欲求を見ることができないのではないか…。そんなペットに注がれている見えざる欲求から、ペットビジネス以外のマーケティングにも適応可能なビジネスヒントが見えてきました。

結果

首都圏・阪神圏の生活者1,093名と散歩中の犬1,226匹のうち、ドッグウェアを着ていた犬は513匹。

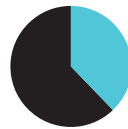


ドッグウェア着用率は、阪神圏（38%）に比べて、「人づきあいには面倒くさいと思う」など対人関係が希薄な首都圏（44%）で高い結果になっています（参考：11ページ DATA3「対人関係に関する意識」）。特に、首都圏の女性が連れていた小型犬では5割を超える（56%）高い着用率を示しました。

42%

着用率は

首都圏 44%
330匹/745匹



阪神圏 38%
183匹/481匹

小型犬 48%
481匹/1,010匹



大型犬 15%
32匹/216匹

女性 49%
306匹/631匹



男性 35%
207匹/595匹

首都圏×小型犬×女性 56%
171匹/305匹



阪神圏×小型犬×男性 30%
61匹/203匹

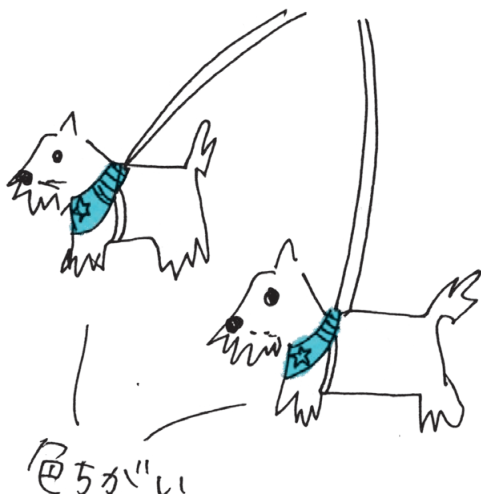
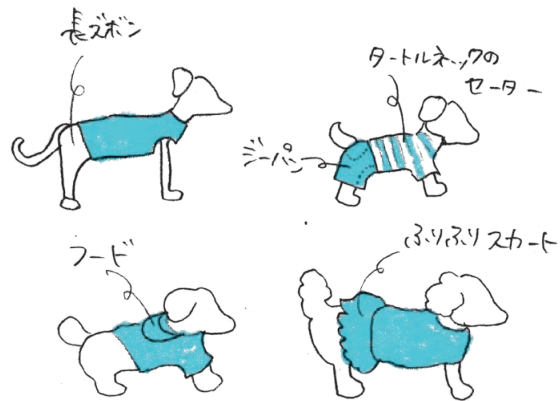
■ 合計に比べて+5ポイント以上
■ 合計に比べて-5ポイント以下

	サンプル数(人) 犬の散歩者	犬の数(匹)			服を着た犬の数(匹)			服を着た犬の割合(%)		
		小型犬	大型犬	小計	小型犬	大型犬	小計	小型犬	大型犬	小計
合計	1,093	1,010	216	1,226	481	32	513	47.6	14.8	41.8
男性	530	473	122	595	192	15	207	40.6	12.3	34.8
女性	563	537	94	631	289	17	306	53.8	18.1	48.5
首都圏	661	575	170	745	302	28	330	52.5	16.5	44.3
首都圏男性	319	270	94	364	131	13	144	48.5	13.8	39.6
首都圏女性	342	305	76	381	171	15	186	56.1	19.7	48.8
阪神圏	432	435	46	481	179	4	183	41.1	8.7	38.0
阪神圏男性	211	203	28	231	61	2	63	30.0	7.1	27.3
阪神圏女性	221	232	18	250	118	2	120	50.9	11.1	48.0

首都圏と阪神圏で総数1,226匹もの犬をじっと観察し続けた調査員の学生さんたち。彼らの観察報告からドッグウェアに関するいくつかの「法則」を発見することができました。

犬のオシャレに、人のオシャレも顔負けの法則

「小型犬に人間が着るような服（上がTシャツ風で下はスカート）を着せている人がいた」、
 「こどもよりおしゃれじゃないかと思う犬がいた」、
 「後ろ脚にのみソックスを履いていた」など、
 犬の服とは思えないぐらいオシャレなものが多かったという報告が数多く見受けられました。なかには、「飼い主はジャージ姿なのに、犬だけは妙にオシャレだった」という報告もありました。

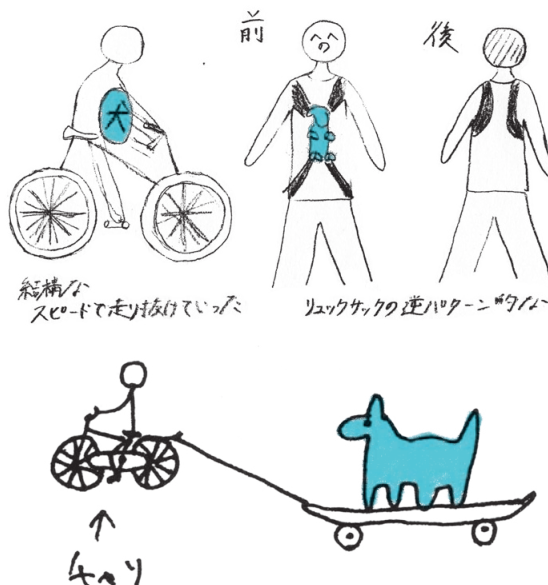


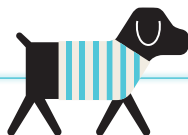
同犬種、お揃いの服の法則

「同じ種類の犬を、数匹飼っている人が意外に多い」、
 「3匹の犬に同じ服を着せて歩いていた。3つ子のような感じでかわいかった」。
 このように犬を複数連れている人について、同じ犬種が多かった、同じ服装が多かったという学生さんたちの報告が目立ちました。
 さらに、注目すべきは、この報告。「犬と犬、飼い主と犬、子供と犬などでパールックのような装いが多かった」犬同士のみならず、人と犬のお揃いも散見することができたようです。意志や感情を通じ合わせることでできる生き物同士、人と犬の境界は縮まっています。

歩く人、歩かない犬の法則

今回の調査で対象としたのは、散歩中の人と犬。しかし、学生さんたちの観察報告には、散歩していない犬に関する記述やイラストが溢れていました。飼い主がこぐ自転車のカゴに乗せられたり、バッグに入れられて公園までやってくる犬。おばあさんの手押し車で大事そうに運ばれている犬。赤ちゃんの抱っこひものようなもので、抱っこされている犬。そして極めつけは、自転車につながれたスケボーに乗った犬。飼い主にとって、家族同様、あるいはそれ以上に大切な犬。車や自転車にひかれたり、変な犬にからまれたりすることのないよう、気遣っているのでしょう。





□ 考察

冒頭にも記したように、「ペットは家族の一員だと思う人は、犬を飼う人では87%にも達しています（「生活定点2008」博報堂生活総合研究所）。特に、犬を飼う女性、首都圏女性、阪神圏女性でペットを家族化意識の割合が高く（いずれも90%）、逆に阪神圏の男性で低くなっています（79%）（参考：11 ページ DATA2「ペットの家族化に関する意識」）。

今回、実施したペットのドッグウェア着用実態も「ペットの家族化意識」と同様の傾向を示しました。女性、首都圏女性、阪神圏女性が連れていた犬で着用率が48～49%と高く、逆に、阪神圏男性の犬で着用率が27%と低くなっていたのです。ペットの家族化意識は、ドッグウェアを着せるという実態に見事に映し出されていたのです。特に、室内での飼育率が高く、飼い主と寝食をともにすることの多い小型犬に限ると、首都圏女性の犬で56%、5割を超える高い着用率が見られました。

犬に服を着せる。では、なぜ服を着せるのか？さらには、服を着せるほど大切な犬と暮らすことで飼い主さんはどんなメリットを感じているのか？ 学生さんたちの観察報告の読み込みと、追加で実施した、愛犬に服を着せている飼い主さん9名へのデプスインタビュー（2009年3月。代々木公園、駒沢公園で実施）を通じ、ドッグウェア着用という実態の奥底に潜む心理や欲求を探索してみました。

分析の結果、生活者は犬との関係を通じ、平和な対人関係を築きたい、人々との交流を広げたいなど、対人関係も良好にしたいという欲求が見えてきました。ペット以外にも転用可能なビジネスヒントとしてご活用いただければ幸いです。



ドッグウェアを着せる理由

寒さから守るため

「冬場しか着せない」という意見が多数。「小型犬は寒がり。いつもコタツに入っている」という人も。犬が寒いとバッグから出てこなかったり、じっと動かなくなったりと、せっかく散歩に出掛けでも、犬の運動のためにならない」とのこと。逆に、「日光浴させる時は着せない」という飼い主さんもいます。愛犬が体調不調だと、病院に連れていったり、看病したり、飼い主さんの生活にも影響。そして何よりも心配でたまらなくなる。そうしたトラブルを未然に防いでいるのです。

汚れ・ゴミから守るため

犬は舗装されていない道で遊ばせたい。でも、自然に溢れた公園や河川敷、ドッグランなどで遊ばせると、身体中が泥だらけになったり、他の犬に舐めまわされたり…。「冬しか着せない」と同様に「外に出る時しか着せない」といった声が多く挙がっていたのは、室内を汚されたくない…という思いからでしょうか。一般社団法人ペットフード協会の調査によると、小型犬人気を反映してか、犬の飼育場所の6割以上は室内なのでから。

乱れた毛並みを隠すため

「犬の毛が伸びて、ボソボソしている時に隠せる」など、本来の犬の毛並みの乱れを隠したいから服を着せるという飼い主さんもチラホラいました。「うちの老犬の毛が薄くなっているのを隠せる」といった声に象徴されるように、犬の世界にも高齢化の波は押し寄せています。今後、ペットの高齢化が進むと、隠すために着るという理由でドッグウェアを着せる人が増えてきそうな気がします。

個性を表現するため

暖色系の服を着ている犬には「女の子ですか?」、寒色系には「男の子ですか?」と互いに聞きあう飼い主さんがいました。人間の子供に服を着せるのと同じです。他にも、「うちの子は、女の子だけど、女の子っぽくない。だから、彼女のキャラに合うよう、カジュアルな服を着せている」という飼い主さんもいました。この飼い主さんによると、服は犬の個性を表現するための道具なんだそうです。人間が服を通して、個性を表現するのと同じですね。

人から注目を集めるため

「わんちゃんのお洋服を何枚持っていますか?」と聞けば、「10枚は持っている」という人が決して珍しくないのです。ドッグウェアは晴れ着ではなく、日常の外出着という感覚で持たれているものようです。かわいい服、おしゃれな服を着ていると、「かわいい!」、「どこで見つけたの?」といったように犬の飼い主さんのみならず、犬を連れてない人から注目を集めることも多く、それをきっかけに会話がスタート、人の輪が広がっていくというケースも多いようです。「犬をほめられると、自分がほめられているみたいで気分がいい」という飼い主さんもいました。



犬との暮らしに感じるメリットと、 そこに見え隠れする欲求

手間暇かけたい、手触りを感じたい。 暗い気持ちを切り替えたい。

「一緒にいたら、抱っこしてとか、遊ぼうとかしつこい。手間がかかるけど、かわいい」
食事や散歩、トイレの始末など、犬との生活は手間と時間がかかります。それでも、生活者が犬との暮らしを嗜好するのは、そんな手間暇を逆に楽しんでいるからなのでしょう。あらゆる生活行動がさまざまな機械によって自動化、省力化されている今。手間暇をかけて何かをやり遂げたり、何かに直接触れてその手触りを感じたりする行為が価値あるものになってきているようです。

「機嫌が悪い状態で家に帰ってきても、犬がいるとネガティブな気持ちを発散できる」
嫌なことや不愉快なことに巻き込まれがちな今。暗い気持ちや否定的な感情に心を囚われ続けることを生活者は良しとしていません。この飼い主さんは、「子供がいるからイライラしないように気持ちを切り替える感情に近い」とも言っていました。生活者はネガティブな気持ちをなんとか切り替え、安静を保ちたいのです。そのきっかけになる何かを探し求めています。

共通のネタをきっかけに人と交流したい。

「うちの子が他の犬に勝手に近寄っていくから、見ず知らずの人とも話ができる」
近所づき合いなど人づき合いが希薄化する都会にあっても、犬がいれば、散歩の途中で犬に話しかけ、そして飼い主さんに話しかけるなどの見知らぬ人とのやり取りが発生します。今回の一連の調査では、犬の飼い主同志のそうした光景をよく目にしました。犬を連れていることで、犬を連れていない人との会話も促進されるという観察報告もありました。まず犬に関して少し話し、その後世間話と知らない人同士のコミュニケーションが芽生えるのです。子育てママ同士のネットワーク作りに欠かせない、我が子のような役割を愛犬が果たしているのです。少子化が進む今、犬のように対話のネタを提供してくれるモノやサービス、コンテンツなどに新たなチャンスがありそうです。

平和な対人関係を築きたい。

「主人とけんかになると二人の間を行ったり来たり。心配してるよ！と犬の話で笑い合って、すぐに仲直りできる」
人と人の間に犬が入っていれば、直接的に人に話しかけるのではなく、犬に話しかけることで、お互いが感情的にならずに話をする事ができる…。犬にはそんな対人トラブルの中和効果があるようです。「子はかすがい」という諺にあるように、犬が「かすがい」になっているのです。いくら年を重ねてもずっと子供のような存在であり続ける犬。取り持つ、介する、間に入る…。今回の調査で聞かれた言葉には、犬が人と人との合間でしっかりと果たしている役割を感じ取ることができました。

規則正しく暮らしたい。

「散歩に行くから早く寝よう、早く起きようと思う。ご飯の時間も守ろうと思う」
犬に朝夕の散歩は不可欠。飼い主は犬と一緒に歩いたり、走ったりするため時間のやりくりをすることになります。お話をうかがった飼い主さんからは、散歩やご飯といった犬の生活を軸に、自分たちの生活を設計しているという意見が聞かれました。暮らしが24時間制になったり、季節感がなくなりつつある今。逆に、自分を律して、生活のメリハリをつけたいという欲求が表れました。



□ 設計

調査目的 ●生活者とペットの犬の関係密度をドッグウェアの着用実態から浮き彫りにする。
●ペットの犬によって充たされる飼い主の生活欲求から、これからのモノやサービスに求められる新しい価値の可能性を探る。

調査方法 観察定量調査
各調査地点に調査員が待機。調査地点を通過する犬を散歩させている人と犬の数、ドッグウェア着用有無を観察記録。さらに、人や犬の特徴や様子などを、絵や文字でレポートにまとめる。

調査地点 首都圏、阪神圏のドッグラン、公園、河川敷など12地点
【首都圏】
駒沢公園、代々木公園、井の頭公園、光が丘公園、隅田川、烏山川緑道
【阪神圏】
六甲アイランド芝生広場、鶴見緑地公園、毛馬桜之宮公園、住之江公園、千里東町公園、夙川公園
※公園や河川敷など犬を散歩させる人が多く見受けられる地点、犬の登録数が多い地点、様々なタイプの生活者を網羅できるような地点を抽出。
※首都圏と阪神圏の比較ができるよう、ドッグランや都心型の大規模公園同士を抽出するなど類似性を考慮して地点を抽出。

調査日時 2009年2月28日(土) 15:00~18:00(3時間)
首都圏・阪神圏とも、同日同時間帯に一斉に調査を行った。

調査対象 【対象とした人】
●調査開始時点から対象調査地点を通過する犬を散歩させている人。
●緑道や遊歩道などでは、ダブルカウントを避けるため、右から左か、左から右か、どちらか一方通行でカウント、公園やドッグランなどでカウントする場合は、入り口での入場のみをカウントする。
【対象とした犬】
●調査開始時点から対象調査地点を通過する人が散歩させている犬(リードでつながれていること。ただし、抱っこされている、自転車の前かごに乗せられている、ベビーカーやキャリアに乗せられているなど、飼い主と犬の関係を特定できる場合も対象とした。)
●大型犬か、小型犬(中型犬を含む)かの見極めは、飼い主がその犬を抱っこできるかどうかを各調査員が判断して区分。
【ドッグウェア着用とした犬】
●リードや胴輪以外に、胴体部分に布をまとっている犬。
●首輪以外に、バンダナなど首に布を巻かれている犬。
●帽子をかぶっている犬。

サンプル数 犬を散歩させていた人 1,093名
(地区) 首都圏: 661名 阪神圏: 432名
(性別) 男性: 530名 女性: 563名
散歩者が連れていた犬 1,226匹
(地区) 首都圏: 745匹 阪神圏: 481匹
(犬種) 小型犬: 1,010匹 大型犬: 216匹

(注) 上記調査結果の考察のため、2009年3月、代々木公園、駒沢公園でドッグウェア着用の犬を連れて来た飼い主9名を対象にデブスインタビューも実施。

DATA1

ペットの種別飼育率

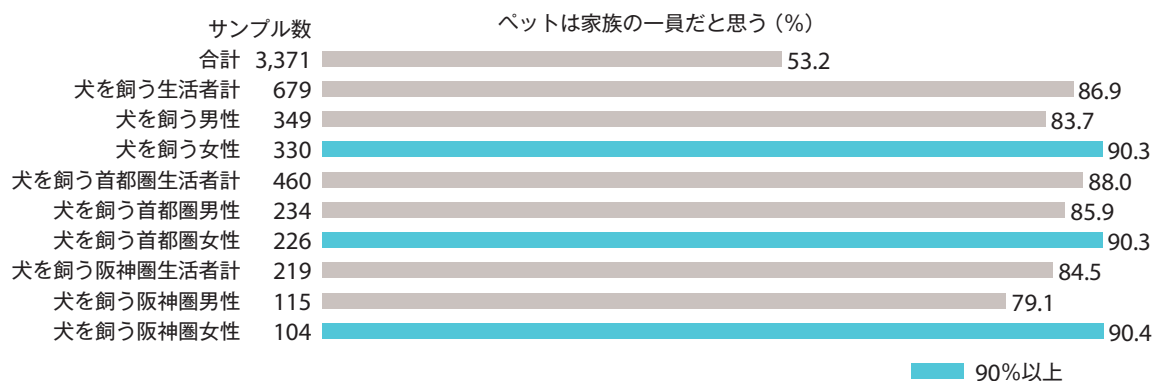
犬の飼育率は20%前後で1位に君臨。次いで、2位. 金魚・熱帯魚、3位. 猫が上位を独占。順位で見ると、小鳥、ハムスター・モルモットの人気は下降、昆虫類が上昇。

2000年		2004年		2008年				
順位	%	順位	%	順位	%			
1	犬	20.2	1	犬	19.7	1	犬	20.1
2	金魚・熱帯魚	15.8	2	金魚・熱帯魚	14.8	2	金魚・熱帯魚	15.3
3	猫	10.9	3	猫	10.9	3	猫	9.2
4	小鳥	4.7	4	亀	3.9	4	昆虫類	3.7
5	ハムスター・モルモット	4.6	5	小鳥	3.5	5	亀	3.3
6	亀	3.8	6	昆虫類	3.2	6	小鳥	2.7
7	昆虫類	3.2	7	ハムスター・モルモット	2.5	7	その他	1.7
8	うさぎ	1.6	8	その他	1.6	7	ハムスター・モルモット	1.7
9	その他	1.2	9	うさぎ	1.4	9	うさぎ	1.2
10	ハ虫類	0.3	10	ハ虫類	0.5	10	ハ虫類	0.4

DATA2

ペットの家族化に関する意識

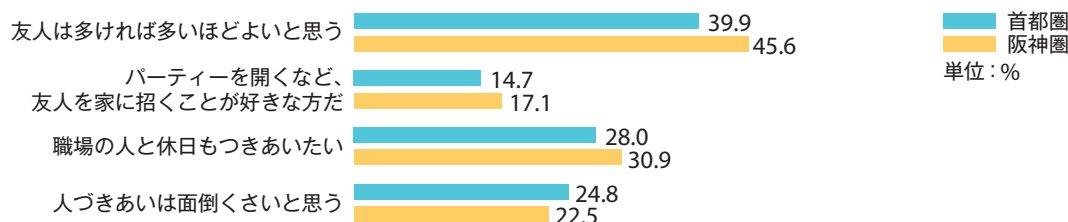
「ペットは家族の一員」と思う人は半数を超え（53%）、犬を飼う人では87%にも達します。特に、犬を飼う女性ではペットを家族視する人が90%を超え、逆に、犬を飼う阪神圏男性では、ペットの家族化意識は79%と低め。この傾向は、ペットの犬にドッグウェアを着せる割合の高低と似た結果になっています。



DATA3

対人関係に関する意識

首都圏は阪神圏に比べて、対人関係が希薄な傾向が見られます。こうした人と人との距離感の違いが、家族化、擬人化などペットの犬と人の濃厚な関係の形成、ペットを仲介に対人関係を円満にするという関係性の違いを生み出していると考えられます。

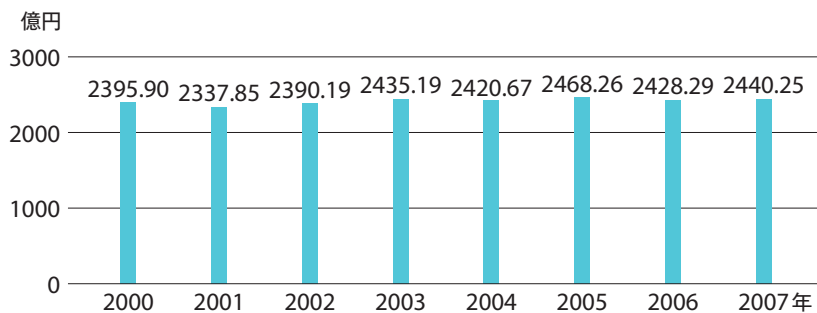


DATA1～3
 [生活定点2008] 博報堂生活総合研究所
 調査地域 首都40km圏、阪神30km圏
 調査対象 20～69歳 男女 3,371サンプル
 調査方法 訪問留置法
 調査時期 2008年5月
 生活定点URL <http://seikatsusoken.jp/teiten/about/index.html>

DATA4

ペットフードの
出荷総額

ペットフード市場は、2,400億円前後の大きさを高位安定しています。

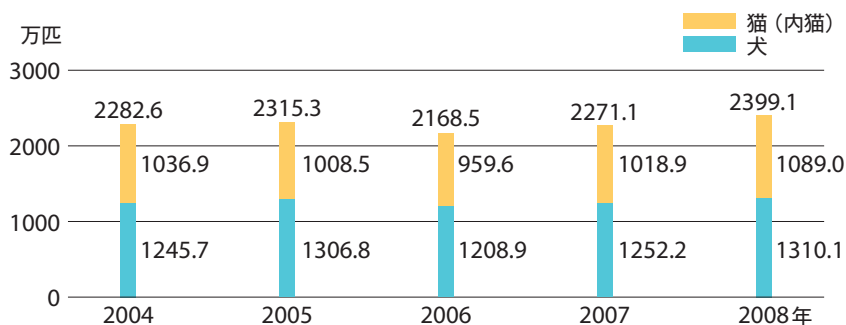


「ペットフード産業実態調査」 一般社団法人ペットフード協会

DATA5

現在飼育匹数

現在飼われている犬猫は、2,399万匹。特に、犬の数が1,310万匹で多くなっています。

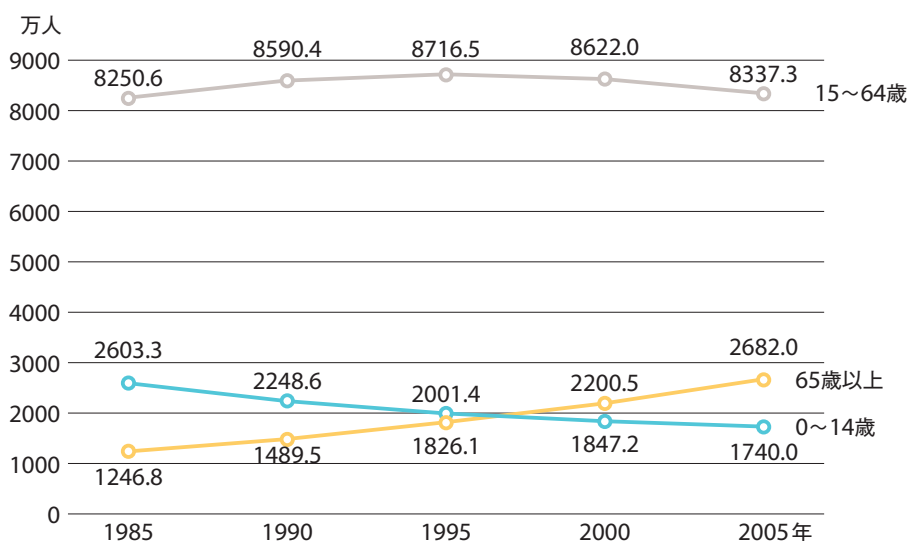


「全国犬猫飼育率調査」 一般社団法人ペットフード協会

DATA6

年齢別人口

少子高齢化が進展しています。15歳未満人口(1,740万人)は現在飼育されている犬猫の数(2,399万匹)を下回るほどです。



「国勢調査」 総務省 統計局

DATA7

犬種別
犬籍登録頭数

登録の多い犬種を見ると、以前は大型犬もトップ10にランクインしていました。しかし、直近ではトップ10入りしているのは小型の犬種が目立ちます。

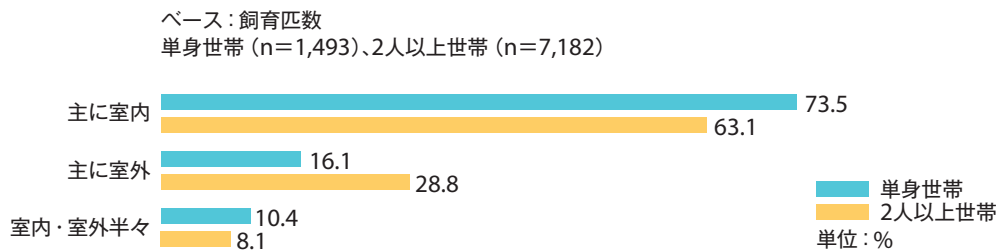
2000年			2004年			2008年		
順位	犬種	匹数	順位	犬種	匹数	順位	犬種	匹数
1	ダックスフンド	97,178	1	ダックスフンド	159,272	1	ブードル	86,913
2	シー・ズー	33,935	2	チワワ	80,923	2	チワワ	82,589
3	チワワ	32,172	3	ブードル	42,876	3	ダックスフンド	79,156
4	ウェルシュ・コーギー	27,503	4	ヨークシャー・テリア	23,741	4	ポメラニアン	20,407
5	ラブラドル・レトリバー	27,393	5	パピヨン	23,003	5	ヨークシャー・テリア	20,349
6	ヨークシャー・テリア	24,498	6	ウェルシュ・コーギー	22,783	6	パピヨン	14,109
7	ゴールデン・レトリバー	22,719	7	シー・ズー	21,907	7	シー・ズー	13,549
8	パピヨン	17,139	8	ポメラニアン	16,315	8	フレンチ・ブルドッグ	12,563
9	ポメラニアン	17,062	9	ラブラドル・レトリバー	15,895	9	柴	12,228
10	マルチーズ	15,474	10	ミニチュア・シュナウザー	14,980	10	ミニチュア・シュナウザー	11,645

社団法人ジャパンケンネルクラブ

DATA8

犬の飼育場所

小型犬人気を反映してか、室内飼育が大半を占めています。特に、孤独の寂しさを埋めるためかひとり暮らし世帯では4人に3人が室内飼育派となっています。



「全国犬猫飼育率調査2006年」 一般社団法人ペットフード協会